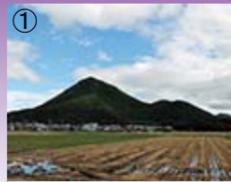




山 仲 善 彰 市長

⑬ 滋賀県野洲市・・・やすし



- ① 近江富士：三上山
- ② 銅鐸とドウタクくん
- ③ アイリスパーク(あやめ公園)

合併前の旧中主町の町花はアヤメです。旧中主町の琵琶湖沿いには、『ピワコマイアミランド・マイアミ浜オートキャンプ場』があり、施設内には季節折々の花が咲く『アイリスパーク(あやめ公園)』があります。

アイリスパークでは、アヤメや花菖蒲を原種から新種まで約800種取り揃えており、見ごろの5月下旬から6月中旬にかけて、約8000株のアヤメや花菖蒲を楽しむことができます。

琵琶湖を望みながら、一面に広がるアヤメを觀賞できるため、県内でも有数の観光スポットになっています。

『琵琶湖』を望むアヤメの花

滋賀県野洲市は、平成16年10月に中主町と野洲町が合併して誕生しました。滋賀県の南部に位置し、南には近江富士として名高い三上山を配し、北には日本最大の湖である琵琶湖の一部を擁する風光明媚なまちです。

野洲市は、『銅鐸のまち』としても知られています。野洲市小篠原の大岩山丘陵で、明治14年に14個、昭和37年に10個、計24個の銅鐸が発見されており、その中には日本最大の物も見つかっています。銅鐸の他にも、古墳群や神社仏閣など豊富な歴史・文化遺産に恵まれたまちでもあります。

また、野洲市は古くから農業を基幹産業として発展してきました。今は先端技術産業の立地も進み、自然の恵みを活かした調和のある発展とともに、子育て・高齢化対策など、安心のまちづくりを目指しています。

豊かな自然と歴史に恵まれたにぎわいとやすらぎのあるまち



二階堂 馨 市長

⑪ 新潟県新発田市・・・しばたし



- ① 市の花『アヤメ』
- ② 新発田城
- ③ あやめ園

新発田市の歴史は、越後平野の北部に位置し、県都新潟市に隣接する新潟県北部の中核都市です。北西には、白砂青松と形容される美しい藤塚海岸が広がり、南東の山岳地帯には豊かな自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があります。また、かつて東洋一といわれた堤桜を有する加治川の水系によって潤う肥沃な土地が広がっており、良質米コシヒカリの産地でもあります。

山から海までの豊かな自然に加え、江戸時代まで新発田藩10万石の城下町として栄えた歴史と文化、昨年、開湯100年を迎えた月岡温泉など、数多くの魅力ある観光資源を活かして、『住みよいまち日本一 健康田園文化都市しばた』をスローガンに、まちづくりに取り組んでいます。

アヤメの振興とまちづくり

城下町新発田を代表する新発田城は、かつては一帯が湿地帯でアヤメが群生していたことから通称『あやめ城』とも呼ばれるように、アヤメは古くから市民に親しまれていますが、戦中、戦後の混乱期には手入れもままならず、いつしか市民の心から忘れ去られようとした時期もありました。

しかし、これに胸を痛めた市民有志が、堀に植栽をはじめたことがアヤメを活かしたまちづくりの始まりとなり、その熱意が多くを市民を動かし、結果、五十公野公園にあやめ園が誕生しました。

あやめ園では300品種60万本のアヤメを植栽し、周囲と調和した美しい景色が生み出されています。この中には、明治神宮や伊勢神宮から譲り受けた伊勢菖蒲、江戸菖蒲の貴重な品種もあり、毎年6月中旬から7月上旬にかけて開催されるあやめまつりでは、多くの観光客が訪れています。

住みよいまち日本一 健康田園文化都市しばた

ヒオウギアヤメの育て方・・・学名：Iris setosa



稲 葉 善 一 さん



厚岸町松葉3丁目・厚岸観光協会顧問
永年にわたり、厚岸観光協会役員として原生花園あやめヶ原を見守り続け、また、町の花『ヒオウギアヤメ』の栽培に取り組んでいる。

- ① 日光と乾燥を好むため、全体の日当たりを良くする。(雑草が生えたら除草する)
- ② 株分けは2〜3年に1回、花の見ごろが終わった直後に行う。その際、葉を3分の1くらい残し切る。
- ③ 鉢植えの場合は根詰まりしやすいので、毎年植え換える。
- ④ 肥料は腐葉土で、株分け、植え換えの際に土に混ぜる。
- ⑤ 秋になり葉が枯れ始めたら、葉を根元から切る。(翌年の生育が良くなる)

みんなで育てよう!! 町の花ヒオウギアヤメ ヒオウギアヤメの育て方

厚岸町の花 ヒオウギアヤメ
ヒオウギアヤメは、アヤメ科アヤメ属に分類される多年草で、葉の様子が檜扇(宮中などで用いたヒノキの薄板を重ねた扇)に似ていることに由来します。

外花被(花弁)は広倒卵型、瓜部は黄色で紫色の脈が走り、内花被は小さく線形です。

高さは70センチから90センチほどで、6月下旬から7月下旬にかけて開花し、山地、草地、湿地など、どこでも育成します。

文仁親王妃紀子さまのお印でもあります。



金 丸 一 元 市長

⑫ 山梨県南アルプス市・・・みなみあるぶすし



- ① 櫛形山から望む白峰三山
- ② アヤメフェア
- ③ アヤメフェアでの風船飛ばし

南アルプス市では、市内を流れる滝沢川沿いから、標高約1900メートルの櫛形山のアヤメ平まで、市内のいたるところでアヤメが花を咲かせます。開花時期は5月中旬から7月中旬で、約3カ月にわたってアヤメを楽しむことができます。

アヤメ平周辺には、かつて約300万本のアヤメが咲き誇り、紫紺に染まるその様は東洋一とも言われました。しかし、鹿の食害の影響を受け、ここ数年でアヤメはその数を大きく減らしましたが、周辺に鹿柵を設置したことで、少しずつではありますが、アヤメの数は増えつつあります。

滝沢川沿いでは、アヤメを育てる会が平成元年より育てている約1万株10万本のアヤメが毎年5月に開花のピークを迎え、訪れた人を魅了します。

櫛形山のアヤメとアヤメフェア

南アルプス市は山梨県の西部に位置し、南アルプスの山々の玄関口として標高日本第2位の北岳(3位の間ノ岳)を有し、ここからは日本最高峰富士山を望むことができます。また、南アルプスの前衛としてそびえる櫛形山に新設したトレッキングコースからは、南アルプスの山々を望むことができます。櫛形山はかつて東洋一のアヤメの群生地として知られ、さまざまな花に出会える山として新・日本花の百名山に選定されています。

雄大な山々の麓に広がる御勅使川扇状地では、水はけの良い地形と、冬と夏の寒暖差を活かした果樹栽培が盛んで、重さ世界一のスモモとしてギネス世界記録に認定された『貴陽』発祥の地でもあり、スモモの生産量日本一を誇ります。他にサクランボ、モモ、ブドウなどさまざまな果樹園があり、初夏から秋にかけて観光客で賑わいます。

人と自然の響き合う 新『文化』都市・南アルプス市